

## 福島第二原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日  
令和6年6月21日（金）
- 2 確認箇所  
1号機サービス建屋地下2階（図1）
- 3 確認項目  
管理区域から非管理区域への空気流入事象に関する対応状況

### 4 確認結果の概要

令和4年1月2日に福島第二原子力発電所1号機サービス建屋内において、管理区域の電線管貫通部から同建屋内の非管理区域へ空気が流入していること※が確認された。その後、当該箇所の閉止措置及び類似の貫通箇所の調査が実施された。

今回は、空気流入事象に対するこれまでの対応状況を東京電力担当者から聴取するとともに、電線管貫通部の状況を確認した。

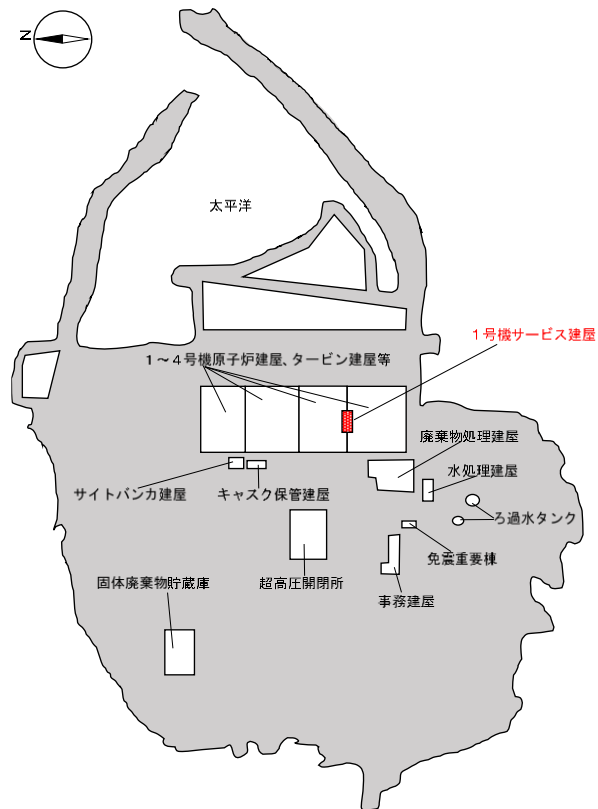
（東京電力からの主な聴取事項）

- ・空気流入の原因は、電線管貫通部を塞いでいるシール材が経年劣化のため脆くなり、徐々にはがれてきたことによるものと推定している。
- ・類似箇所の調査として約5,000の貫通部を確認した結果、管理区域から非管理区域への空気流入箇所を6箇所確認した。当該箇所は耐火パテにより補修が完了している。また、当該エリアの汚染検査を行い、外部への放射性物質の漏えいがないことを確認した。

（現地の状況）

- ・貫通部に設置されている鉄板、耐火パテに異常はなく、空気の流入がないことを確認した。（写真1）
- ・当該貫通部の周辺にある貫通部（ケーブルラック、扉等）を確認した結果、空気の流入は認められなかった。

※ 福島第二原子力発電所1号機サービス建屋内における空気流入事象：令和4年1月2日、福島第二原子力発電所1号機サービス建屋において、管理区域の電線管貫通部から同建屋内の非管理区域へ空気が流入していることをパトロールしていた東京電力社員が確認した。応急措置として耐火パテを施すことにより空気流入は停止した。その後恒久対策とし鉄板による閉止措置を実施した。同時事象による外部への放射性物質の流出は確認されなかった。



(図1) 福島第二原子力発電所構内概略図



(写真1-1)  
貫通部の確認状況



(写真 1—2)  
貫通部の状況